

バイオテクノロジー戦略大綱詳細行動計画への取組 及びライフサイエンス分野推進戦略について

平成18年1月26日
内閣府

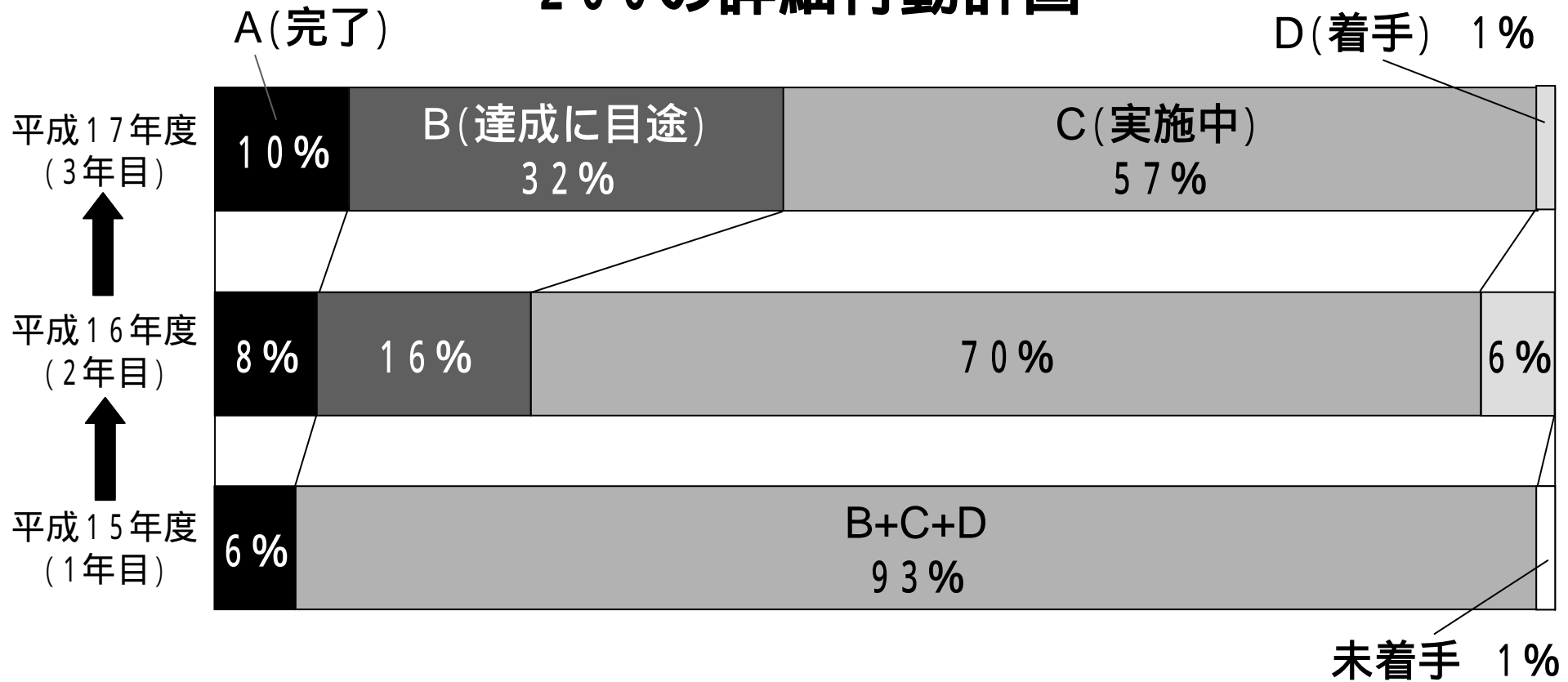
・バイオテクノロジー戦略大綱詳細行動計画進捗状況

バイオテクノロジー戦略大綱に関連する最近の動き

- H17年3月15日 第7回BT戦略会議開催
- H17年6月 「知的財産推進計画2005」の策定
- H17年6月 H18年度科学技術に関する予算、人材等の資源配分方針策定
- H17年7月 科学技術連携施策群の運営を開始
- H17年10月 H18年度概算要求における科学技術関係施策の優先順位付け(SABC付け)の実施
- H17年12月14日 ライフサイエンス分野推進戦略プロジェクトチーム(第1回)を開催
- H17年12月 総合科学技術会議が第3期の科学技術基本政策答申を決定
- H18年1月26日 第8回BT戦略会議開催

詳細行動計画の進捗状況

200の詳細行動計画



前回と比較し、A: 8% 10% (15 20)、B: 16% 32% (32 64)、C: 70% 57% (142 114)、D: 6% 1% (11 2) となった。

3つの戦略ごとにみた詳細行動計画の進捗状況

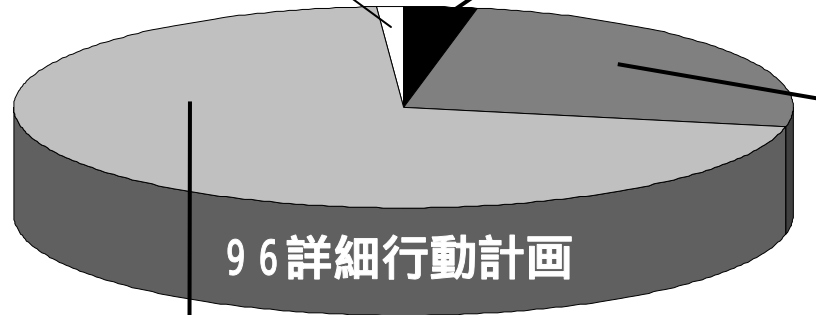
－戦略1：研究開発の圧倒的充実－

D(着手): 1%(1項目)

- 遺伝子治療に用いるベクターの研究開発支援

A(完了): 3%(3項目)

- (独)医薬基盤研究所の設立
-創薬プロセス等の支援



**B(達成に目途):
23%(22項目)**

- 革新的ながん治療法等の研究推進
-診断・治療法開発にむけた橋渡し研究の推進
-膵がんの新規血液診断法の開発
- イネゲノム情報、栽培生理情報等の統合データベース整備

C(実施中): 73%(70項目)

- ゲノム育種による品種育成技術の開発
-病害虫、不良環境に強い有用遺伝子の機能解明の実施
-環境ストレスに強い植物の開発
- 再生医療における、細胞等の評価手法・標準化の検討
-工業化を目指した培養細胞評価法の検討

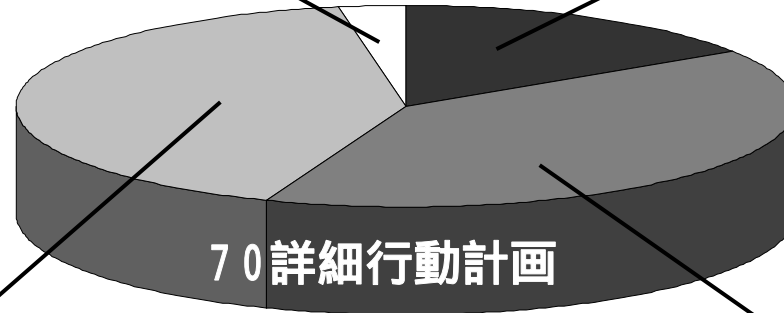
3つの戦略ごとにみた詳細行動計画の進捗状況 －戦略2：産業化プロセスの抜本的強化－

D(着手): 1%(1項目)

- 廃棄物からのメタン回収施設の設置

A(完了): 17%(12項目)

- 高度先進医療実施要件の緩和



C(実施中): 43%(30項目)

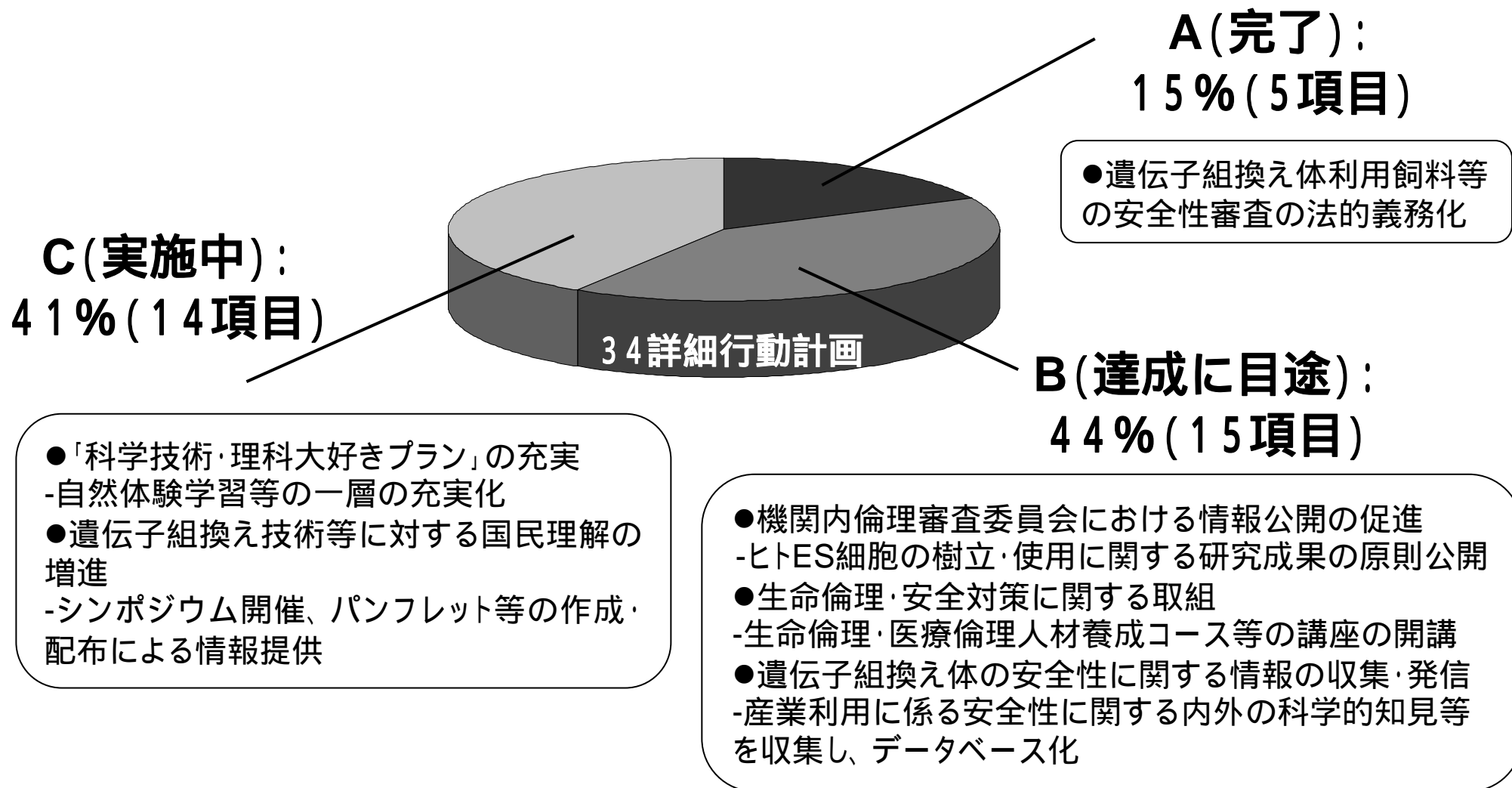
- 企業ニーズや社会ニーズに対応した研究テーマの設定
 - 「産学官共同研究の効果的な推進」プログラムの実施
- 保健機能食品等についての普及啓発の促進
 - 栄養情報担当者認定試験の実施
- 企業が積極的に医療機器の開発・製品化に取り組むための環境整備
 - 医療機器開発ガイドラインの作成等

B(達成に目途): 39%(27項目)

- 治験に関する大規模なネットワークを形成
- 知的財産の創造と活用の総合的支援
 - 大学等における知的財産本部の整備等

3つの戦略ごとにみた詳細行動計画の進捗状況

－戦略3：国民理解の徹底的浸透－

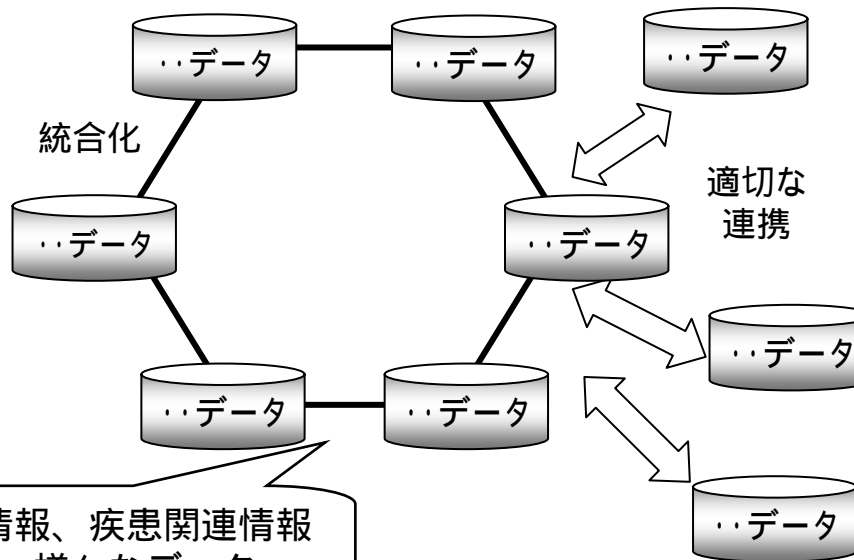


. BT推進の連携強化

総合科学技術会議が司令塔としての機能を発揮し推進している科学技術連携施策群のもと、各府省の施策として欠落している部分を補完する課題の一つとして、「生命科学データベース統合に関する調査研究」を平成17年度より開始。

<補完的課題> 将来的なデータベースの統合化や適切な連携を進める準備のため、フィージビリティスタディやロードマップの試案作成などを実施。

<問題意識> 研究成果の医療応用、産業応用を円滑に進めるためには、様々なデータベースの特徴を踏まえつつ、生成された膨大なデータの統合化や適切な連携が必要。



遺伝子情報、疾患関連情報
など、様々なデータ

健康科学への貢献など、様々な恩恵の早期実現

研究代表者: 大久保公策 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所・教授
参画機関 (平成17年度): 国立がんセンター、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人農業生物資源研究所

第3期科学技術基本計画の基となる答申の基本理念 及び分野別推進戦略について

第3期科学技術基本計画（平成18年度から平成22年度） の基となる答申の基本理念

【基本姿勢】

社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術
人材育成と競争的環境の重視
～ モノから人へ、機関における個人の重視

【政策目標の明確化】

6つの大目標、12の中目標に向けて科学技術政策を推進し、成果実現と
説明責任を強化

<理念1> 人類の英知を生む

<大目標1>

飛躍知の発見・発明

～ 未来を切り拓く多様な知識の蓄積・創造

- (1) 新しい原理・現象の発見・解明
- (2) 非連続な技術革新の源泉となる知識の創造

<理念2> 国力の源泉を創る

<大目標3>

環境と経済の両立

～ 環境と経済を両立し持続可能な発展を実現

- (4) 地球温暖化・エネルギー問題の克服
- (5) 環境と調和する循環型社会の実現

<理念3> 健康と安全を守る

<大目標5>

生涯はつらつ生活

～ 子供から高齢者まで健康な日本を実現

- (9) 国民を悩ます病の克服
- (10) 誰もが元気に暮らせる社会の実現

<大目標2>

科学技術の限界突破

～ 人類の夢への挑戦と実現

- (3) 世界最高水準のプロジェクトによる科学技術の牽引

<大目標4>

イノベーター日本

～ 革新を続ける強靱な経済・産業を実現

- (6) 世界を魅了するユビキタスネット社会の実現
- (7) ものづくりナンバーワン国家の実現
- (8) 科学技術により世界を勝ち抜く産業競争力の強化

<大目標6>

安全が誇りとなる国

～ 世界一安全な国・日本を実現

- (11) 国土と社会の安全確保
- (12) 暮らしの安全確保

ライフサイエンス分野推進戦略の策定について

- 現在検討中の第3期科学技術基本計画案において、BTを含むライフサイエンスは引き続き重点推進分野の1つ。
- 総合科学技術会議は、第3期科学技術基本計画のもとに、政策目標の実現に向け、分野内の重点化の考え方に基き、分野別推進戦略を本年3月を目途に策定予定。
- ライフサイエンス分野推進戦略の策定に際し、以下の4つの領域について重点的に検討。
 - ・ ライフサイエンスを支える基礎・基盤科学技術領域。
 - ・ 国民への成果還元の見点を重視する観点から、食料・生物生産応用領域、産業応用領域、医療応用領域の3つの領域。